

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 上越教育大学・教授

氏 名 迎 勝彦

研究期間 令和4年度～令和5年度

研究プロジェクトの名称	大学の地域連携事業を活用した教員研修システムの構築
研究プロジェクトの概要	<p>若手教員の減少と授業力低下が深刻な問題となっている今日、教員一人ひとりが自らの職能を高め、ライフプランに合わせて継続的・計画的に授業力を高めていける研修体系の構築が急務である。今年度から始まった全国教員研修プラットフォーム「Plant」は、パソコン等から自分の実践課題に合った研修を検索し申し込むことができるため、自分の研修をマネジメントしやすくなった。ただ研修内容の概略が数行で書かれていることが多く、誰がどんな教材を使って指導しているのかが不明瞭である。そのため当該研修が自分の学びたいことに一致しているのかを教員側が判断しにくいという課題も認められる。これに対して大学などの外部機関の研修システムは、誰がどんな内容の講義をするのかが明確で、教員にとって受講の判断がしやすい。特に本学の「自主セミナー」の取組はその利点大きい。</p> <p>本プロジェクトでは、こうした自主セミナーが地域の教員の教科指導力の向上に寄与できるものになることを企図し、その効果検証を行う。また、担当するセミナー「読みの会パステル」を研究フィールドとして、地域・大学と連携して読解力向上に関わるプログラムを開発し、各校でのプログラム普及を図る。このことで若手教師の国語の授業力向上を図ることができると考えた。</p>
研究 成 果 の 概 要	<p><u>1 授業力向上を図る自主セミナーの開発</u></p> <p>令和4年度、本プロジェクトを通して①読みの会パステル、②授業づくりセミナー、③はじめてのオンライン授業学習会の3つのセミナーを運営し、地域の教員の指導力向上を試みた（令和4年度研究代表者である谷内卓生を中心に実践・研究活動を行った）。①では、国語の文学的文章の指導法に焦点を当てて情報交換を行った。ハイブリッド形式で行ったことにより、上越市から距離のある糸魚川市や東京都、石川県の先生方が参加した。②では、教育実習を控えた学部生や院生を授業づくりの基礎をテーマとした研修会を催した。実際に地区の学校に勤務している教員を招き、直接授業づくりのポイントを語ってもらった。③では、タブレットを活用した授業の在り方について、グーグルのジャムボードを中心に情報共有をした。</p> <p>令和5年度は、若手教員の教科指導力の向上を目指した研修会を全国規模で行うことを試みた。自主セミナー「読みの会パステル」を母体とした新しい国語授業研究サークル「国語授業のアストラテラス会」を立ち上げ（谷内卓生他）、その1回目のセミナーを令和6年3月3日（日）に東京の明治図書本社の会議室で行った。対面参加が24名、オンライン参加が60名となり、合計84名の教師が参加した。全国の教員の国語指導への意欲と技術の向上とともに、ハイブリッド型セミナーの運営方法を学ぶことができた。</p> <p><u>2 読解力向上プログラムの開発</u></p> <p>本プロジェクトのもう一つの柱は、児童生徒の読解力を高めるプログラムの構築であった。小学校や中学校での授業実践研究や自主セミナーでの情報交換により、(1)作</p>

	<p>品を横断する汎用的読解活動（①場面、②人物、③あらすじ、④変容、⑤主題）の反復、(2)学習者が自分の読みの1枚の紙にまとめる「読みレコ」の創作の2点が特に有効であることを明らかにした。これらのことを以下の研修会や雑誌で発表し、授業方法の改善に努めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講演（谷内卓生）「物語・小説の授業で育てる読解力」（燕市教育委員会主催「教科指導プロフェッショナル研修」、令和4年5月） 2) 公開授業（谷内卓生）「100万回生きたねこ」（糸魚川市立糸魚川東中学校、令和4年11月） 3) 講演（谷内卓生）「物語・小説の授業で育てる読解力」（糸魚川市教育研究会国語部主催研修会、令和4年11月） 4) 講演（谷内卓生）「物語・小説で育てる読解力」（上越市学校教育研究会国語部研修会・上越国語教育連絡会秋季研修会、令和4年11月） 5) 八木かおり（能生中学校）の実践研究論文『『自分の読み』の創作に没頭する生徒の育成』の指導（令和5年9月） 6) 雑誌「国語教育」10月号（谷内卓生）「教師のいない国語授業」において「教材研究」と「発問」の原稿を担当 7) 今則人（上越教育大学 M3）氏の「低学年の文学的文章におけるICTを活用しての人物関係図の作成」のサポート（上越教育大学土田たけし輔研究室学校支援プロジェクト「主体的に関わりながら『自ら考え、行動する子』の育成につながる支援」、令和5年11月） 8) 講演（谷内卓生）「国語における自分らしさの追究～自力読みから学んだ汎用的読解活動と読みレコを使って～」（研究プロジェクト主催「第1回みんなの『自力読み』セミナー」、令和6年3月）
<p>研究成果の発表状況 （※今後の予定も含む。）</p>	<p>プロジェクト終了から2年（2024.4～2026.3）の間に、教員研修の在り方に関わる論文を作成し、国語指導に関わる本を授業研究サークル（国語授業のアスラテラス会）で出版する。</p>
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<p>国語教育のアスラテラス会のセミナー活動を継続する。「みんなの『自力読み』セミナー」を年2回（8月、3月）継続して実施する。 南能生小学校の令和6年度の校内研究で「読みレコ」の創作を試みる。</p>